

1 主題設定の理由

児童の実態

本学級の児童は、周りの友達が困っていると声をかけたり、1年生のお世話を率先して行ったりと最高学年としてみんなの手本になろうと努力している。友達アンケートの結果では、異性と仲良く接することができるかと回答している児童が98%であった。しかし、思春期に入り、異性を意識し始め、からかったり、ちょっかいを出したりといった場面が増えてきた。また、一人一人は自分の考えをもっているが、積極的に意見を言おうとする児童が少ない。異性の良さを認め、それぞれの友情の捉え方を一歩深め高められるよう教材を通して、話合いを深めていきたい。

教材について

すみ子と仲のよいところをたかしに見られ、からかわれたり、周りに言いふらされたりするのをいやがる一郎は、すみ子をわざと避けようとする。小さなことにこだわらない明るい性格のすみ子は、たかしのリレーでの失敗を許し、一郎の誕生日には、すばらしい「言葉のおくりもの」をする。すみ子の異性を気にせず、誰にでも優しく接する姿を見て変化していく一郎の心情に迫ることで、男女を超えた友情の在り方を考えさせていく教材である。

人権教育の「三つの側面」と育成する資質・能力

①知識的側面 【知識・技能】	○ 異性の良さを認め、心情や立場を受け止める良さに気付く。
②価値的・態度的側面 【主体性・積極性】	○ 異性にとらわれることなく助け合ったり、協力し合ったりしていこうとする。
③技能的側面 【表現力】【コミュニケーション能力】	○ 一人一人が自分の考えをもち、どのように男女で接したらいいか話し合えることができる。

本時のねらい

- 異性にとらわれることなく、互いに信頼し合って友情を深め、よりよい人間関係を築いていこうとする態度を育てる。

指導のポイント

- ① 中心発問「すみ子の『言葉のおくりもの』を聞いて、一郎やたかしはどんなことを思っただろう。」では、考えを深めていく中で、異性に対しても信頼をし合い、友情を育て、互いの良さを認めていくことの大切さに気付けるようにする。
- ② 日頃から「話す・聴く」力を育てるためにチャレンジャー・名人・達人・超人と基準を定め、相手を大切にしたい話合い活動ができるように取り組んでいる。また、話合い活動の時は、コの字型隊形を用いることで、うなずいたり共感したりしやすい場の設定を行う。
- ③ ペアトークやワークシートに書くことで、自分の考えをもたせる。また、グループトークで自分と友達の意見をつなげながら話し合うことで、いろいろな考えに気付き、自分を振り返ることで今後の生活に生かしていけるようにする。

2 各教科等との関連

時期	教科・特別活動 総合的な学習の時間	道徳科	常時活動 家庭・地域との連携
4月	○学校行事 「運動会」 互いに高め合い、切磋琢磨しながら練習に励む。		○家庭 「学級通信」「懇談会」 総合的な学習の時間に取り組んでいることや道徳の学習内容を知らせ、連携を図る。
5月	○国語科 「風切るつばさ」 クルルとカララとの関係を捉え、人物の心情を考えながら読む。	○道徳科 友情、信頼 B(10) 「言葉のおくりもの」	
6月	○学級活動 「クラスの目標」 みんなで協力してよりよい学級を作っていくための学級目標をきめる。		○常時活動 「学級裁量の時間」 「わんぱくタイム」 様々な活動を通して、仲間意識を高め、みんなで仲良く活動することができる。
7月	○児童会活動 縦割り班活動を通し、下級生を思いやり、行動する。		○常時活動 「学級裁量時間」 構成的グループエンカウンターを通して、仲間づくりを行う。
	○学級活動 「なかよし集会」 自分の役割に責任をもって協力し合い、楽しい集会にする。		
互いに信頼し合い、学び合う子ども			

	学習活動 主な発問 (○), 中心発問 (◎), 児童の反応 (・)	指導上の留意事項 (◇)	評価規準 【人権教育の視点】等
導入	1 クラスでの様子を振り返る。	◇ 事前のアンケート結果を取り上げながら, 身近な友達のことから考え, 意識を高めていくようにする。	聴いて 自分の思いと比べて友達の考えを受け入れながら, 聴く。
展開前段	2 教材「言葉のおくりもの」を読んで話し合う。	◇ 挿絵や登場人物の顔を貼り, 関係を整理していく。	考えて 複数の意見の類似点や相類似点を見付けて, より良い考えをもつ。
	○ すみ子との仲をからかわれた一郎は, どんな気持ちになっただろう。	◇ からかわれて憂鬱になっている一郎の気持ちに共感させる。	つなげる 相手と自分の意見の類似点や相違点を明らかにしながら伝える。
	・いやだなあ。 ・はずかしいなあ。 ・あんなことぐらいで, なぜ?	◇ 「すみ子は悪くないけど, また, たかしに何か言われるかもしれない。」という葛藤する気持ちに共感させるようにする。	
	○ 「よけいなことをするな, さっさと帰れ。」と言ったのはどんな気持ちからだっただろう。	◇ 「おこる相手はたかしさんでしょ。」というすみ子の発言も意識させるようにする。	
	・また, たかしにからかわれる。 ・もう放っておいてほしい。 ・冷やかされるのはすみ子のせいだ。	◇ たかしを励ますすみ子の姿から, 男女に関わりなく接するすみ子の考え方を深く考え始める一郎の心の内に気付かせる。	※ 異性の良さを認め, 心情や立場を受け止める良さに気付く。 【知識的側面】
	○ たかしを励ます, すみ子を一郎はどう思っただろう。		
	・なんで, たかしを励ますのかな。 ・すみ子は優しいな。		
	◎ すみ子からの「言葉のおくりもの」を聞いて, 一郎やたかしはどんなことを思っただろう。	◇ ワークシートに書かせ一郎の心の変化について考えさせる。	※ 一人ひとりが自分の考えをもち, どのように男女で接したらいいか話し合う。 【技能的側面】
	・ひどいことを言ってしまったな。 ・すみ子のように自分の気持ちに素直になろう。 ・周りばかりを気にしてすみ子の気持ちを考えていなかった。 ・すみ子のように男女に関わりなく友達に声をかけたい。	◇ すみ子の言葉を聞くことで, これまでの自分の言動を恥ずかしく思っている一郎に共感させる。	
		◇ たかしやクラスみんなの気持ちも考えさせることで, いろいろな立場の考えに気付かせる。	

展開後段 終末	3 本時の振り返りを行う。 ○ 6年2組をどんなクラスにしていきたいですか。また、自分がやってみようと思うことは何ですか。 ○ 異性に言葉のおくりものを贈る。	◇ 自分のこれまでの生活を振り返る。 ◇ 授業で考えたことを基に、これからどのように男女で接していくとよいかワークシートに書き、交流する。	※ これからの生活で、異性にとられることなく助け合ったり、協力し合ったりしていこうとしている。 【価値的・態度的側面】
	4 本時のまとめをする。 男女関係なく、一人の友達として接し、助け合ったり協力し合ったりすることが大切。 5 教師の説話を聞く。	◇ 男女という関係にとられることなく、人として一人一人が良さを出し合い、協力していこうと話をする。	



4 板書計画

